中部日本
戰時版

發行所
中部日本新聞社
名古屋市中區西川端町一ノ五
別館
同　東區御幸本町通二ノ四

一ケ月七十錢（一部）三錢

發行人　松村鄕鵜
編輯人　島山　飼
印刷人　加藤登一

スイスに財務官を駐在

政府は歐洲における帝國財務の円滑な運營を圖りスイスに財務關係官を駐在せしめるため大藏省官制を改正七日より施行

パラオ諸島に皇軍勇戰

ペ島の敵損二万突破
七十二隻を轟撃沈
挺進斬込みに敵震駭

大本營發表（昭和十九年十月六日十五時）一、パラオ諸島方面現在の戰況次の如し

ペリリュー島の我部隊は同島中央高地帶及北部地區並グアドブス島に於て優勢なる敵の反復攻撃に對し其の都度大損害を與へて之を陣前に撃退すると共に果敢なる挺進斬込みにより敵を震駭せしめつゝあり

アンガウル島の我部隊は同島西北部高地付近に於て寡兵克く優勢なる敵に對し勇戰激闘中なり

陸軍井上 海軍伊藤 中將指揮

パラオ諸島の陸軍部隊指揮官は陸軍中將井上貞衛にして海軍部隊指揮官は海軍中將伊藤賢三なり

二、九月十五日敵上陸以來ペリリュー島及同島周邊に於て之に與へたる損害中現在迄に判明せるもの次の如し

兵員殺傷	一万八千名以上（海上を含まず）
戰車炎上又は擱坐	百九十輛以上
火砲鹵獲又は破壞	十二門
艦船轟沈	巡洋艦一隻、驅逐艦二隻、艦種不詳一隻
撃沈	潜水艦一隻、掃海艇一隻、艦種不詳二隻、上陸用舟艇六十二隻
炎上	輸送船四隻
撃破	上陸用大型舟艇二隻
飛行機撃墜	二十七機（内不確實五機）
撃破	七機
其他鹵獲又は破壞	兵器、彈藥、糧秣等多数

海軍部隊指揮官
伊藤賢三海軍中將

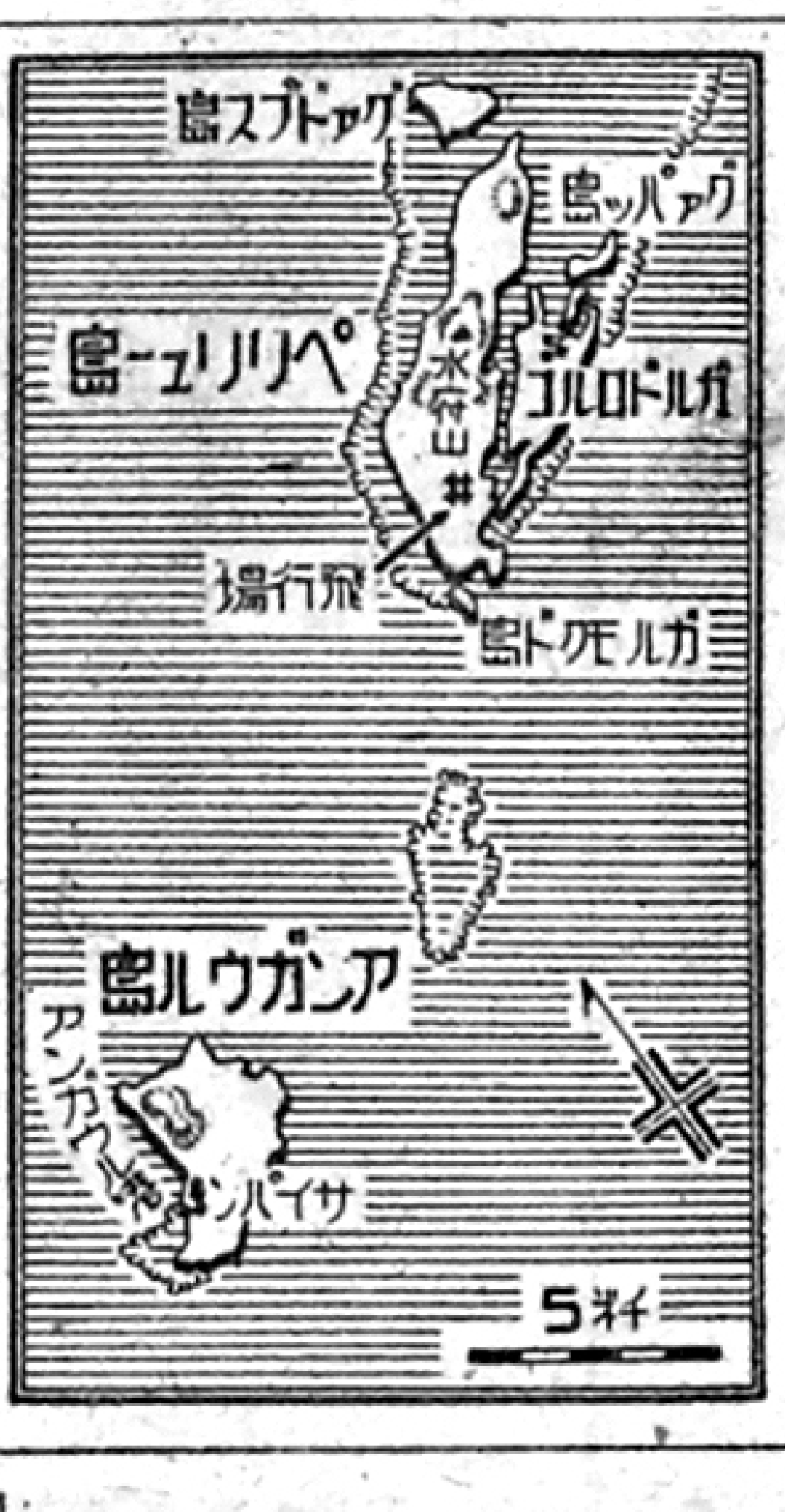
神兵の威力を發揮
島嶼作戰に未曾有の敵出血

マッカーサーの比島奪回前哨戰たるペリリュー、アンガウル島に對する敵米軍の侵攻は熾烈執拗を極め同島守備部隊の勇戰激闘によつて敵上陸軍に對し多大の出血を與へてゐる、即ちペリリュー島においては去る

八月十五日 約一個師團内外の部隊が戰車その他多数の有力なる火力を有する砲兵部隊を伴ひ上陸し來つたが我が守備部隊は敢然と水際に邀撃し敵に大なる損害を與へた、しかし敵はその後も執拗にも逐次上陸し猛烈な砲爆撃下、戰車を先頭に頑強に攻撃を續けてゐるが、我が軍もこれに對し連日連夜多数の肉薄攻撃班及び斬込み挺進班を以て斬込み敵兵を殺傷するのみならず兵器、彈藥、施設などを破壞するなど敵陣を震駭せしめてゐる

九月十八日 夜の如きは七名の我が將兵が敵兵廿七名を殺傷し、また九月三十日には一組の斬込み攻撃班によつて敵兵七十を叩き斬るなど我が將兵の戰意は旺盛を極めてゐる、かくて敵戰意は漸く衰へを見せ同島飛行場南側に戰車、砲兵を以て複郭陣地を構築してゐるが砲爆彈また消耗を來しその行動は漸次退嬰的となり、これがためその後新兵力、彈藥の補給を受けたものの如く廿五日頃から敵兵の行動は漸次活潑となつた、即ち同日ガルドロルコ波止場付近に新たなる敵部隊が上陸し來り、また廿六日にはさらに一部の敵が同島西海岸北部地區に侵入、二十八日にはグアドブス島にも敵の上陸を見るにいたつた、かくて

十月四日拂曉 敵は南北から同島中央高地付近に攻撃を開始し來つたがわが守備部隊はこれを邀撃し悉く撃退せしめた、特に觀測山に攻撃し來つた敵に對しては半數以上を殺傷し潰亂せしめ更に中央高地の觀測山、水府山のわが陣地に對しては砲爆撃掩護の下に敵は火焔放射器を使用し攻撃し來つたがわが部隊は果敢なる肉彈突撃により大損害を與へことごとく撃退せしめた、一方敵はその間飛行場の修理を急ぎ十月一日頃から小型機の使用を開始した模様で三日には小型機のほかに輸送機三十機を着陸せしめた、また現在までにペリリュー島に上陸せしめた兵力は二個師團内外と目され、わが守備部隊の激闘により敵兵員の損害は大本營發表の如く一万八千を算しこれに海上部隊の二千五百を合すれば二万以上を突破する模様である



アンガウル島 においては約半個師團内外の兵力をもつて上陸し來つたがわが軍は又肉彈斬込みを繰返し敵に多大の出血を與へると共に戰意益々旺盛で現在迄に判明せる戰果は十九日夜と二十日の戰闘のみでも戰車數輛を擱坐せしめ、大小上陸用舟艇三十隻を撃沈、重火器三、迫撃砲三を破壞せしめ兵員三百以上を殺傷せしめた、また二十日夜から二十一日の戰闘では中型戰車十輛を擱坐せしめ重火器四を破壞せしめて依然同島西北の我が陣地を確保してゐる、かくて比島奪回に狂奔する米軍は多大の出血をつけ敵病院船の往復は激しく物資の消耗は勿論敵人員の喪失は莫大なるものとなつてゐる、かくの如く

パラオ諸島 の激戰こそ太平洋島嶼戰未曾有の出血を敵に喫せしめたものでわが部隊は驚くべき大戰果をあげ、現在さらに勇戰激闘を續けつゝあるが幾多のわが勇士が出血をもつて記録して來つた島嶼戰の戰訓を生かし物量に對する頭の戰法ともいふべき皇軍獨自の戰闘方式即ち果敢且つ組織的な肉彈攻撃による成果に外ならない

パラオへ五十機
ラバウルにも百十二機

【ラバウル六日發特電】四日晝間ラバウルに敵中型小型機延百十二機が來襲した

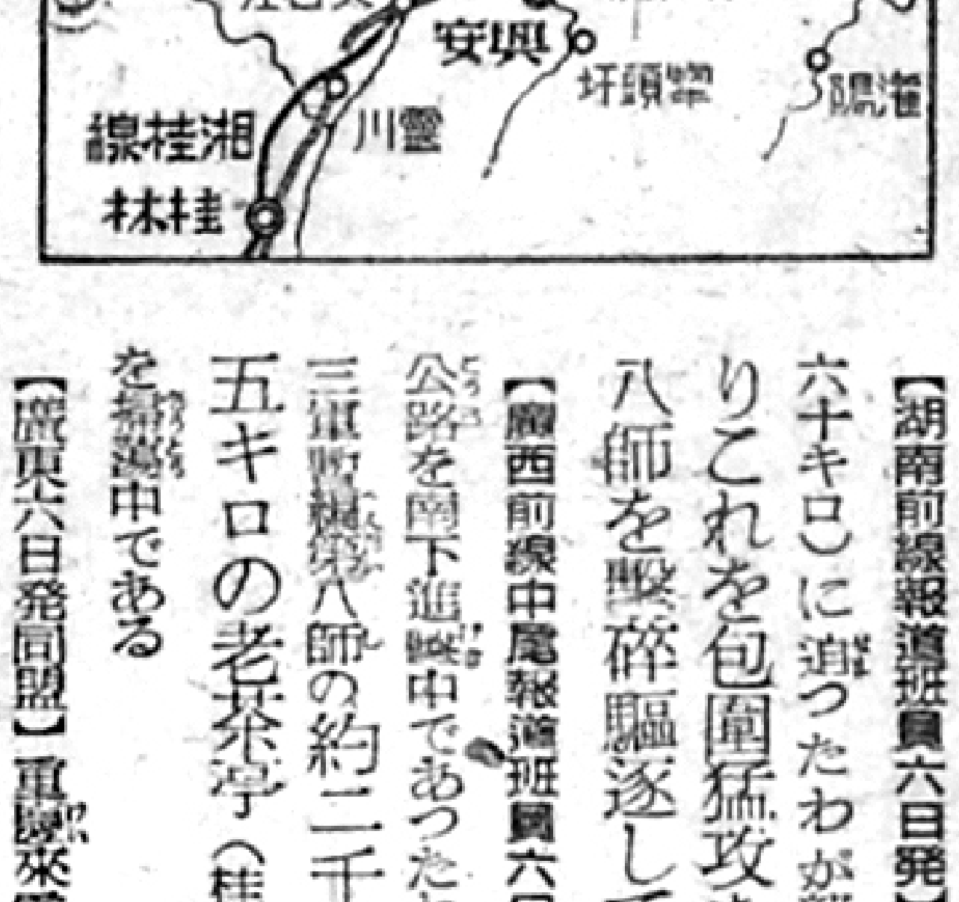
ロタ【中部太平洋基地六日發特電】五日晝間ロタ島に敵中型小型機十數機が來襲したが我が所在部隊はその一機を撃墜した、又同日晝間パラオ本島に敵中型機延五十機が來襲した

カウ灣【南西太平洋基地六日發特電】四日午前ハルマヘラ島北部カウ灣に敵戰爆約三十機が來襲した

興安を完全占領
老茶亭拔き大容江到達

【湖南前線報道班員六日發】桂林防衛の最大據點興安城（桂林東北六十キロ）に迫つたわが部隊は東、南、北の三方面よりこれを包圍猛攻を加へ同城に據る敵暫編第八師を撃碎驅逐して興安を完全に占領した

【廣西前線中尾報道班員六日發】一日早朝興安を占領、引續き湘桂公路を南下進撃中であつたわが軍は三日激戰ののち所在の敵第九十三軍暫編第八師の約二千を撃破して興安西方約十五キロの老茶亭（桂林東方約五十キロ）を奪取目下敗敵を急追中である



【廣東六日發同盟】重慶來電によれば重慶軍事委員會は五日の戰況公表で興安を占領した日本軍は更に猛進撃を續行桂林へ約四十キロの大容江に到達せる旨確認「興安占領の日本軍は引續き南進を續け興安西南廿キロの大容江付近に達し目下熾烈な戰闘が展開されてゐる」と發表した

福州進撃部隊
尹頭門へ到達

【廣東六日發同盟】重慶來電＝重慶軍事委員會は五日の戰況公表で「連江から福州に向つて進撃する日本軍は福州東方の尹頭門一帶に進出連日激戰を繰返してゐるが重慶軍の損害も頗る大きい、また湘南西部方面では日本軍は二日夜二回に亘り象達の重慶軍陣地に攻撃を加へた」と發表した

代用バンソー膏
カミバンソ　㋢
カミバン綬テコにて一個三寸と七寸の紙（ペ万金膏の大きさ）にのせば〃バンソー膏になります
（各藥店にあり）　發賣元　マルイマ製藥所

桂林へ五里

【リスボン六日發同盟】米陸軍長官スチムソンは五日の記者團會見で「日本軍はその占領地を擴大して桂林へ二十キロ（五里）以内にある」と述べた

鮎川顧問、首相要談

内閣顧問鮎川義介氏は六日午後四時四十分官邸に小磯總理を訪問要談した

獨大使外相要談

スターマー駐日ドイツ大使は六日午後四時重光外相を訪問要談を遂げた

筆陣

一方に結核などの初期であることを知らずに日々出勤し、或は病氣と知りながら生命の危險を冒してまで增產に身魂を打込んでゐるものがあるのに、一方には僞による休養證明書や診斷によつて、健康体でありながら「病氣缺勤」してゐるものがあると產業衛生協議會で指摘された。

× ×

工場における健康管理の重要性はいふまでもないが、毎月一回檢診を行ふとか、榮養劑を給與してゐるとかいふだけで健康管理が出來てゐると思つてはならない。また檢診や注射のために二時間も作業を放棄して医務室に行列するやうなやり方も決戰下の健康管理としては落第だ。

× ×

立派な休養室が設けてありながら、病氣や負傷しても健康者と同室に臥床させ、榮養も與へず、見舞にも來ない寄宿舍もあるといふ。青少年工員などが一寸した病氣にも郷里へ歸りたがるのも當然で、健康管理の良否も結局は親心の有無にある。

決戰の障碍を打開
施策は急速決定し滲透
首相發言

小磯首相

小磯首相は六日の閣議において特に發言を求め各閣僚は今後一層緊密な連絡をもつて決戰施策の推進に最善の努力を傾注しさらにこの精神を行政の下部末端に迄滲透徹底せしめもつてこの目睫に迫る決戰を斷乎勝ち拔かんと左の如き強固な決意を披瀝した

首相發言要旨 決戰の段階に臨んでは機構弄りの如きはやるべきでないが戰爭完遂のため支障あるものは機構人事においても積極果敢に打開突破するやう強力に施策を推進せしめ閣僚とも隔意なく意見を交換して急速に物事を決めて行きたい、特に從來動もすれば各閣僚間においては諒解し合つても事務當局の末端に迄徹底しなかつた憾みがある場合があつてこの點は各閣僚においても最善の努力を拂ひ　また閣僚は勿論各省一体となつて決戰施策の運營實施に努めたい

國體への信仰を振起
輿論指導四原則を發表

政府は皇國興廢の岐路に立つ現下國民の戰意を最高度に昂揚せしめるため輿論指導方針の再檢討を進めてゐたが、こゝに「決戰輿論指導方策要綱」を決定、六日緒方情報局總裁は、その中心をなす指導四原則について大要次の如き談話を發表した

緒方國務相談 戰時下の國民輿論指導は開戰以來一貫せる方針の下に實施してゐるが、決戰に邁進せねばならぬ今日、指導の仕方については過去の經緯を新しい氣持を以て見直し改むるの必要を認めここに左の要綱を決定した

第一 國體に對する信仰 宣戰の大詔の御主旨を滲透し決戰的戰局認識の徹底を圖る、悠久三千年祖先より受け繼ぎ來つた國体への信仰を喚起し國民が國に殉ずるはこの秋であるとの決意を新にし、われ今起たずんば誰がやるかとの氣魄をもつて職場で十二分の力を出すことである

第二 事實を率直報道 國民の一人々々が我が國の當面せる事態を十分に認識すれば政府はなにも言はない、でも國民自ら進んで戰局突破の氣魄は澎湃として湧き上ることは必定である、十分に認識を與へるため戰局はじめすべての報道は率直に事實を知らせる、但し戰略、外交など機密を要すべき事項は勿論報道出來ない

第三 公正なる言論尊重 國民の中に自ら進んで戰爭完遂に邁進しようといふ氣魄が溢れた時に之が活潑なる言論となり或は國民運動となる、かゝる言論、運動により士氣は一層昂揚される　政府はかゝる言論は自由活潑に行はしめ、國民運動は隨所に展開させたい、また國民は熱意を以てこれを盛立てに參加するであらう　勿論國体信仰を動搖させ、軍事、外交上の秘密保持に支障を生じたり或は國內分裂を招來したり、その他戰爭遂行を阻害するおそれあるものは嚴重に取締る、この點は特に申しておく

第四 國民生活明朗化 戰力增強に必死となり、戰局苛烈に伴ひ國民の日常生活に困難な部面が多くなればなるほど國民の氣分を明朗に保つやう努力せねばならぬ